ISO 9001
認証取得

shindaiwa

取扱説明書

エンジンチェンソー

EA300S
EA360S

Softスタート

⚠警　告

ご使用前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。
また、内容をよく理解したうえでご使用ください。
不適切な操作や保守は重大な事故につながるおそれがあります。
なお、本書はいつでも利用できるよう、大切に保管してください。

目次

	頁
1．安全にご使用いただくために	1
1－1　ご使用前に	2
1－2　キックバック	4
1－3　給油	5
1－4　始動	5
1－5　作業	6
1－6　停止	7
1－7　点検・整備	7
1－8　移動・保管	8
2．各部名称	9
3．組立の手順	11
3－1　外観と付属部品のチェック	11
3－2　ガイドバーとソーチェンの取り付け	11
3－3　ソーチェンの点検と調整	12
4．エンジンの始動と停止	13
4－1　燃料の給油	13
4－2　チェンオイルの注入	14
4－3　エンジンの始動	15
4－4　始動困難なとき	16
4－5　停止	17
4－6　チェンオイル給油量の調整	17
5．アイシング防止について	18
6．チェンブレーキについて	19
6－1　チェンブレーキの操作	20
6－2　チェンブレーキの解除要領	20
6－3　チェンブレーキの手入れ	21
7．切断作業	21
7－1　効率のよい使い方	21
7－2　伐木	21
7－3　玉切りと枝払い	22
8．点検・整備	23
8－1　エアクリーナーの掃除	23
8－2　キャブレターの調整	24
8－3　スパークプラグの点検	26
8－4　シリンダーフィンの掃除	27
8－5　燃料フィルターの点検	27
8－6　スプロケットの点検	27
8－7　クラッチカバーの掃除	28
8－8　ソーチェンの点検と目立て	28
8－9　ガイドバーの手入れ	30
9．長期保管	31
10．修理を依頼する前に	32
11．主な消耗品	33
12．仕様	34

新ダイワ工業株式会社

はじめに

新ダイワエンジンチェンソーをご購入いただきありがとうございます。この取扱説明書の「安全にご使用いただくために」を十分理解し安全に使用してください。この取扱説明書で分からないことがありましたらお求めの販売店かお近くの弊社営業所にお問い合わせください。

チェンソーは高速で走行回転するソーチエン（刃）で木材を切断する機械です。事故、人的負傷、火災などを予防するために安全を常に心がけてください。不注意または不適切な使用は重大な事故の原因となります。

シグナル用語の説明

この取扱説明書は次のシグナル用語を使用しています。

⚠ 危　険　**取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される場合。**

⚠ 警　告　**取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。**

⚠ 注　意　**取扱いを誤った場合、使用者が障害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合。**

1.安全にご使用いただくために

警告ラベルの意味



この取扱説明書をよくお読みください。また内容をよく理解したうえでご使用ください。



この機械を運転中は常に耳せん、保護めがね、保護帽を着用してください。



キックバック注意。ガイドバーの先端で切断しないでください。

⚠ 危　険

- 取扱説明書を読んでいない人や年少者（子供）にチェンソーを使用させないでください。
- このチェンソーを他人に貸すときは、必ず取扱説明書を添付してください。
- はじめてチェンソーを使用する方は、使用方法を販売店などからよく教わり、使用方法を十分習得してから使用してください。
- 業務に従事される方は、労働安全基準法による特別教育を受けてください。
- 木材の切断以外に使用しないでください。石、金属やプラスチックなどの木質でない物を切断しないでください。
- フロントガードなどの安全装置を絶対に取りはずしたり、破損したままで使用しないでください。
- 屋内などの換気の悪い場所では、決してチェンソーを運転しないでください。排気ガスにより、ガス中毒をおこします。
- 排気ガスを直接吸わないでください。

⚠ 警　告



- 疲労、病気、酒気帯びの場合、または医薬品服用中の場合は作業を行わないでください。また作業中に体調が悪くなった場合にはすぐエンジンを停止し、作業を中止してください。
- 風、雨、大雪、濃霧などの悪天候のとき、または落石やなだれのおそれのある場所では、使用しないでください。
- 作業は早朝や夕方には行わず、視界のよい日中に行ってください。
- 作業前にチェンソーの点検を行ってください。このとき、破損した部品は交換し、ねじの脱落やゆるみのないことを確認してください。
- 作業前に作業場所をきれいにしてください。石、割れたガラス、釘、ワイヤは飛散して大ケガをするおそれがあります。

■ 作業前に燃料漏れがないか確認を行ってください。漏れがあった場合はただちに修理してください。

■ 裾のひらひらした服、アクセサリー類、ショートパンツ、サンダルなどを着用しないでください。頭髪は肩から下に垂れないように覆ってください。枝や機械の可動部に絡まるおそれがあります。

■ 靴は底に滑り止めのついた安全靴を使用してください。雨や雪の日は、滑りやすいので作業をさけてください。

■ 規格に合った保護帽を正しく着用してください。落下物によりケガをするおそれがあります。

■ 必ず保護めがねをつけてください。

■ 必ず耳せんをつけてください。聴覚障害をおこすおそれがあります。

■ チェンソーを取り扱うときには、厚手で滑り止めのついた防振性のある手袋を着用して手を保護してください。

■ チェンソーの操作時間は1日2時間以内にとどめ、10分以上の連続運転はしないでください。振動障害をおこすおそれがあります。



■ 正しく目立てされたソーチェンを使用してください。

■ 寒冷のときには、長時間の作業はしないでください。

■ 作業中の身体の保温に注意してください。

■ 混合ガソリンを使用しますので、チェンソーのそばで喫煙やたき火をしないでください。火災発生のおそれがあります。

■ マフラーやマフラーから出る排気は非常に高温になりますので、燃えやすい物を近づけないでください。

■ 新ダイワ工業が指定したガイドバーおよびソーチェン以外は使用しないでください。

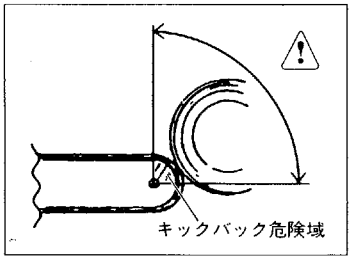
■ 決してチェンソーを勝手に改造しないでください。

⚠注　意

■ ソーチェンを取り扱うときは必ず手袋をしてください。ソーチェンは鋭いカッターでできています。素手でさわるとケガをします。

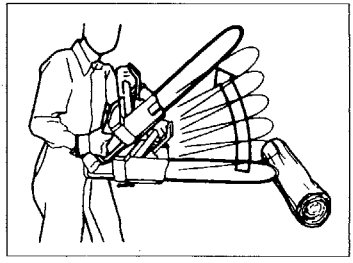
■ ソーチェンの調整が適切に行われ、適当な張りぐあいを保っており、クラッチカバーがしっかり締め付けてあることを確認してください

1－2　キックバック



⚠危　険

■ ガイドバーの先端、とくに上部1/4が固い物に当たったり、はさまれたときソーチェンの回転の反動でガイドバーの先端がはねあがったり、ガイドバーが後方に押し出され、たいへん危険です。この反動をキックバックと言います。この場合、運転者はチェンソーをコントロールできなくなり、重大な事故につながる場合があります。ガイドバーの先端で切断しないようにしてください。



■ チェンソーには目立てしたよく切れるソーチェンを使用してください。キックバックの発生が少なくなります。

■ フルスロットルで切断を行ってください。フルスロットルで切断力が最大となり、キックバックが起こりにくくなります。

1—3　給油

⚠ 警　告

■ ガソリンと2サイクルオイルの混合および給油は、屋外の風通しのよい火気のない場所で行ってください。給油はエンジンを停止し、エンジンが冷えた後にゆっくりと燃料キャップをはずして行ってください。急に燃料キャップをはずすと燃料が吹き出すことがあります。

■ こぼれた燃料は本体から拭き取ってください。

■ 燃料が身体にかかったときは、すぐに水洗いし、着衣は着替えをしてください。

■ 燃料の持ち運びや保管など、取り扱いには十分注意してください。

1—4　始動

⚠ 危　険

■ エンジンを始動するとき、ソーチェンが地面や他の物体に接していないことを確認してください。エンジンを始動するとすぐにソーチェンが回ります。

■ エンジン始動時および運転時は、絶対にソーチェンに身体を近づけないでください。

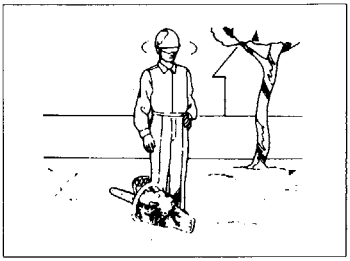
■ チェンソーを片手で持上げたままでの始動は決して行わないでください。チェンソーのコントロールができず、たいへん危険です。

⚠ 警　告

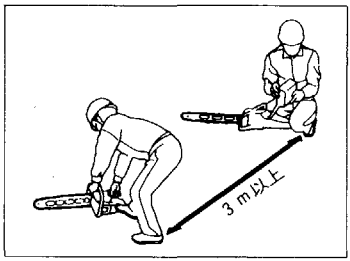
■ エンジンの始動は取扱説明書に従い、安定の良い場所で行ってください。

■ 始動時は周囲の安全を確認し、一人（補助者なし）で行ってください。

■ エンジンがアイドリング時、ソーチェンが回転しないことを確認してください。アイドリ



ング時、ソーチエンが回転すると危険です。回転する場合はアイドリング調整をして回転速度を下げてください。（8－2　キャブレターの調整）

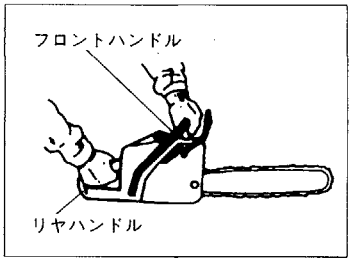


■ こぼれた燃料への引火防止のため、エンジンの始動は、給油場所から3m以上離れた場所で行ってください。

1－5　作業

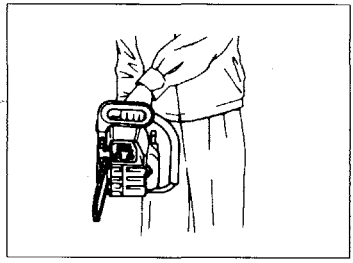
⚠警　告

■ チェンソーを操作するときは左手でフロントハンドル、右手でリヤハンドルをしっかり握ってください。



■ 作業中はソーチエンと身体との接触をさけるために、チェンソーを体の右側に位置させてください。

■ チェンソーは胸より下の位置で使用してください。立木の枝払いのとき、チェンソーが肩より高くなるような姿勢での作業はたいへん危険です。



■ しっかりした足場の上で安定した姿勢で作業を行ってください。

■ 作業する場合、チェンソーを使用する周辺に他の人、子供、動物がいないことを確認してください。誰かが近づいてきた場合は、エンジンを停止し、ソーチエンを止めてください。

■ 山の斜面で作業する場合は、作業者の位置が上下にならないようにしてください。

■ 作業は原則として一人で行い、複数で作業する場合は十分な間隔をとってください（伐木する場合は、対象木の高さの2.5倍以上離れてください）。

■ チェンソーを使用している人に近づくときはお互いに合図を行い、エンジンを停止し、停止を確認した後に前から近づいてください。

■ チェンソーを落としたり作業中に木にぶつけたり、何か異物に当てたときは、エンジンを停止し損傷の有無を調べてください。損傷があれば使用せず、すみやかに修理してください。

■ この取扱説明書の作業方法に従って切断、枝払い作業を行ってください。

■ 適当な長さに木を玉切りするときは地形を考慮し、山の上手を背にして下向きに作業してください。木が転がってきて、大ケガをするおそれがあります。

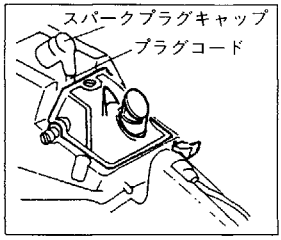
■ 燃料が漏れた場合は、ただちにエンジンを停止し、火気を近づけないでください。

■ 燃料キャップは休憩時に増し締めしてください。運転中に振動でゆるんでいる可能性があります。

⚠ 注　意

■ 運転中または運転直後に高温部（マフラー、シリンダーなど）に触れないでください。やけどをします。

■ 運転中は高電圧部（スパークプラグキャップ、プラクコードなど）に触れないでください。感電するおそれがあります。



1－6　停止

⚠ 警　告

■ エンジン停止後、あるいはスロットルレバーを戻した後も、ソーチエンはしばらく回転し危険です。スイッチを切ったときには、ソーチエンが停止するのを待って、停止を確認した後に本体を地面に置いてください。

1－7　点検・整備

⚠ 危　険

■ 点検・整備（ソーチエン交換、掃除など）を行うときは必ずエンジンを停止し、ソーチエンが停止していることを確認してから行ってください。

⚠ 警　告

■ ガソリンはたいへん引火しやすいので、点検・整備は風通しのよい火気のない所で行ってください。

■ 燃料キャップや燃料タンクから燃料漏れがないか定期的に確認してください。

■ 整備や修理を行うときは新ダイワ純正部品を使用してください。他社の部品を使用すると重大な事故になるおそれがあります。

■ 取扱説明書に記述がない整備や修理は行わないでください。そのような整備や修理はお求めの販売店かお近くの弊社営業所に依頼してください。

⚠ 注　意

■ 点検・整備はエンジンが冷えてから行ってください。やけどのおそれがあります。

1—8　移動・保管

⚠ 警　告

■ 移動時、あるいは保管時にはエンジンを停止してください。また、ソーチェンにチェンカバーをしてください。

■ ソーチェンでけがをしないために、移動時はフロントハンドルを持ち、ガイドバーを後ろ向きにしてください。

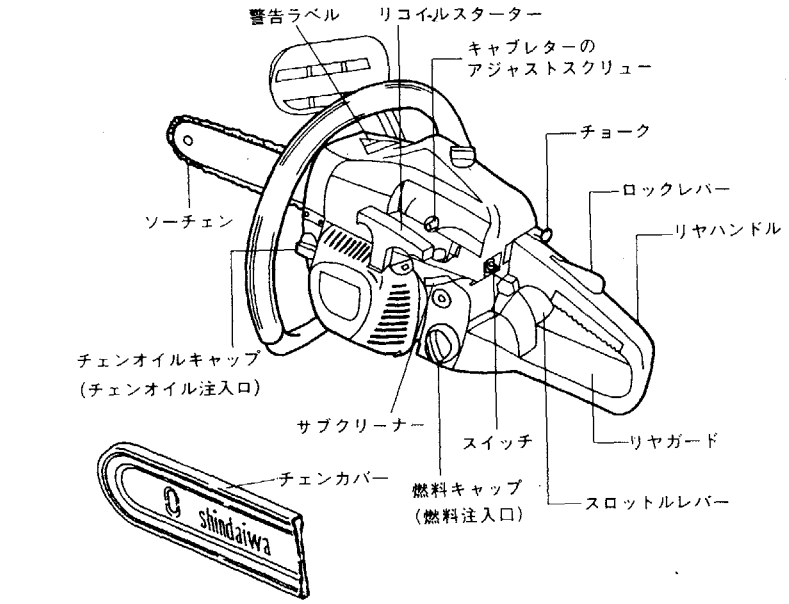
⚠ 注　意

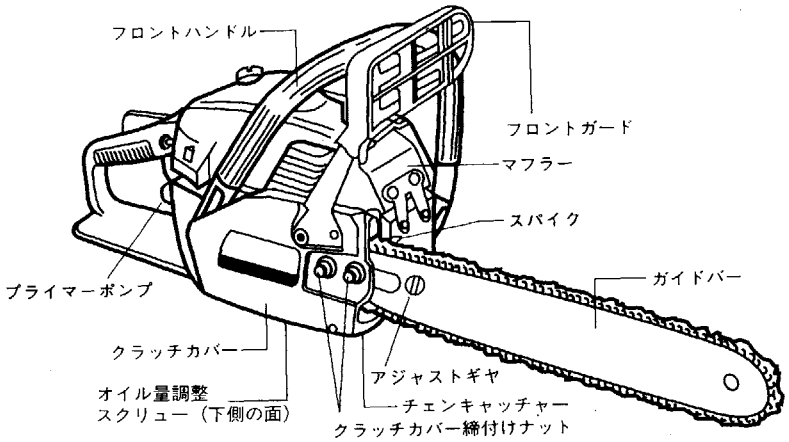
■ 燃料漏れ、破損、けがなどを防止するために、チェンソーを転倒しないように安定した場所に保管してください。

■ 年少者（子供）の手が届かない乾燥した冷暗所に保管してください。

■ 2～3日以上保管する場合は燃料タンクを空にしてください。

2．各部名称


警告ラベル
リコイルスターター
キャブレターの
アジャストスクリュー
チョーク
ロックレバー
リヤハンドル
ソーチェン
チェンオイルキャップ
(チェンオイル注入口)
サブクリーナー
スイッチ
リヤガード
チェンカバー
燃料キャップ
(燃料注入口)
スロットルレバー
shindaiwa

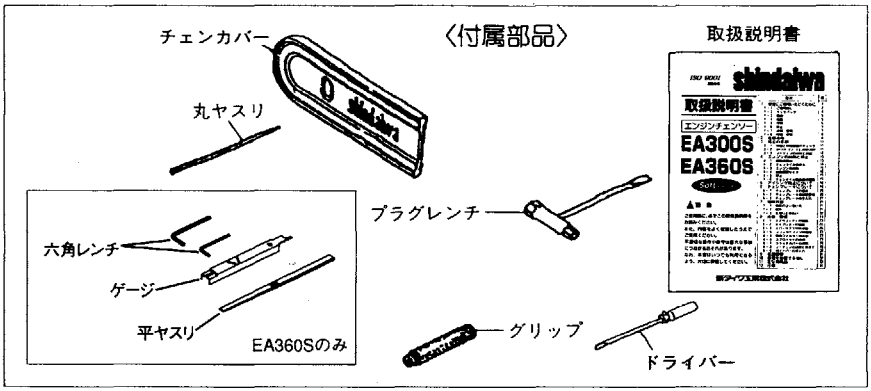

フロントハンドル
フロントガード
マフラー
スパイク
ガイドバー
プライマーポンプ
クラッチカバー
オイル量調整
スクリュー（下側の面）
アジャストギヤ
チェンキャッチャー
クラッチカバー締付けナット

1．リコイルスターター	グリップを引いてエンジンを始動します。
2．キャブレターのアジャストスクリュー	アイドリング回転数を調整します。
3．チョーク	冷えているエンジンを始動する時に始動しやすくします。
4．ロックレバー	スロットルレバーを作動させる前に押し下げます。
5．リヤハンドル	チエンソーの後方にある右手用ハンドルです。
6．スロットルレバー	エンジンのスピードをコントロールします。
7．スイッチ	スイッチを下側（STOP）にするとエンジンが停止します。
8．燃料キャップ	燃料タンクのふたです。
9．チエンオイルキャップ	チエンオイルタンクのふたです。
10．ソーチエン	カッターの付いたチエンです。木材を切断します。
11．警告ラベル	警告指示事項を示します。
12．フロントガード	フロントハンドルの前方にあり、手を保護します。
13．マフラー	排気音を減少させます。
14．スパイク	木につめをたてチエンソーを固定します。
15．アジャストギヤ	ソーチエンの締付け調整をします。
16．ガイドバー	ソーチエンの支持と案内をします。
17．クラッチカバー締付けナット	クラッチカバー、ガイドバーを固定します。
18．オイル量調整スクリュー	チエンオイルの流量を調整します。
19．クラッチカバー	ソーチエン、クラッチ、スプロケットをカバーし、ガイドバーを固定します。
20．フロントハンドル	チエンソー前方にある左手用ハンドルです。
21．プライマーポンプ	燃料をキャブレターまで汲み上げ、始動を容易にします。
22．チエンキャッチャー	ソーチエンがはずれたとき、足を保護します。
23．チエンカバー	チエンソーを移動あるいは保管するときにソーチエンの上から取り付けます。
24．リヤガード	リヤハンドルの下方にあり、ソーチエンがはずれたとき手を保護します。
25．サブクリーナー	キャブレター室へのゴミ浸入を防止します。

3．組立の手順

3－1　外観と付属部品のチェック

この製品は工場出荷の際、厳重な検査を行っておりますが、念のためにこの製品の損傷やボルト、ナット類のゆるみなどがないか点検してください。また、付属部品の欠品がないか点検してください。
点検の結果、異常や欠品があった場合はただちにお求めの販売店もしくは弊社営業所へご連絡ください。

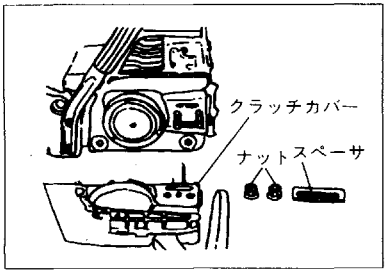


3－2　ガイドバーとソーチェンの取り付け

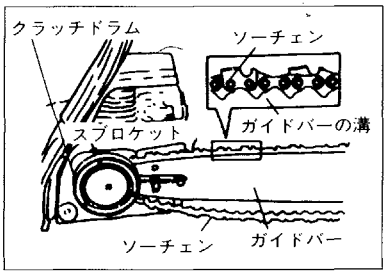
本機はガイドバーとソーチェンを組み付けてありません。次の手順でガイドバーとソーチェンを取り付けてください。

① 梱包箱からチェンソー本体、ガイドバー、ソーチェンを取り出してください。

② クラッチカバー締め付けナット（2か所）をはずし、クラッチカバー、スペーサーを取りはずしてください。スペーサーは使用しません。



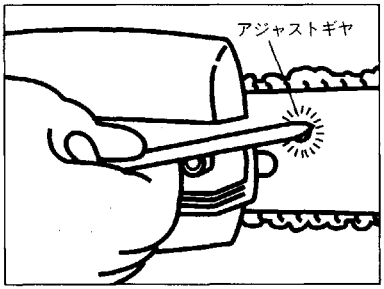
③ ガイドバーを取り付けてください。



⚠ 注　意

■ ソーチェンを装着する際は必ず手袋をしてください。
■ ソーチェンは、前ページ下図の拡大図に示す向きで装着してください。

④ ソーチェンをスプロケットにはめ、次にガイドバーの溝にはめてください。
⑤ ソーチェンを取り付ける前にガイドバーのアジャストギヤを左にまわすと楽に取り付けられます。
⑥ ガイドバーを本体から遠ざける方向に引き、クラッチカバーを取り付け、締め付けナット（2箇所）で軽く締め付けてください。その後、ソーチェンの調整作業(3-3 ソーチェンの点検と調整 2.調整②から)に入ります。



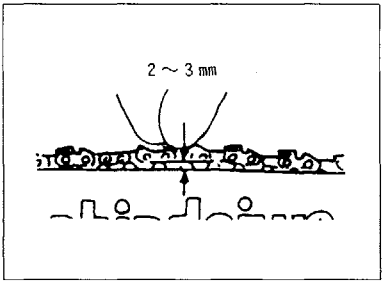
3－3　ソーチェンの点検と調整

⚠ 警　告

■ 作業途中でソーチェンを点検・調整するときは、エンジンを停止して行ってください。また、エンジンが十分に冷えてから実施してください。
■ ソーチェンの張りがゆるい状態で使用しますと、ソーチェンがはずれて思わぬ事故になります。使用前には必ず点検してください。

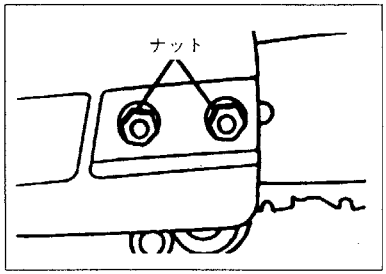
新しいソーチェンを使用する場合は、ソーチェンが伸びやすいため、張り調整をひんぱんに行ってください。
ソーチェンの調整は、安全性や寿命あるいは切断性能に大きく影響しますので適正に調整してください。張りが強いときは、ソーチェン、ガイドバーが早くいたみます。
新しいソーチェンはチェンオイルに一晩浸してから使用してください。

1．点検
ガイドバーの中心近くのソーチェンを指で軽く持ち上げたとき、ガイドバーから2～3㎜浮いた状態になっていることを確認してください。（右図）
範囲外のときは、次項の手順に従って調整してください。



2．調整

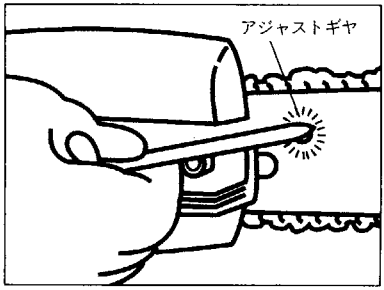
① クラッチカバーの締付けナット（2か所）を約1回転ゆるめてください。（反時計方向）



② ガイドバーの先端を持ち上げながら前方に移動させて仮にソーチェンを張り、ドライバーでアジャストギヤを時計方向に止まるまで軽くまわしてください。

時計方向にまわす:ソーチェンが張ります。

反時計方向にまわす:ソーチェンがゆるみます。



③ 調整が終わったらクラッチカバーの締め付けナット（2か所）を付属のプラグレンチの小さい方を使い、手で確実に締め付けてください。

4.エンジンの始動と停止

4－1　燃料の給油

⚠ 警　告

- 給油は屋外の風通しのよい火気のない場所で行ってください。
- こぼれた燃料は必ず拭き取ってください。

1．燃料

燃料は必ず、無鉛ガソリン50に対して新ダイワ純正2サイクルエンジンオイル1の割合（50:1）又は、無鉛ガソリン25に対して2サイクル専用オイル1の割合（25:1）で混合した混合ガソリンを使用してください。
燃料の混合は容器にオイルを先に入れ、後からガソリンを加えてください。

例) ガソリン	新ダイワ純正2サイクルエンジンオイル	2サイクル専用オイル
	50:1	25:1
（L）	（ml）	（ml）
1	20	40
4	80	160
8	160	320

2．給油

⚠ 注　意

異物やゴミをタンク内に入れないために、燃料やオイルを給油する前にキャップのまわりをよく掃除してください。

燃料は常に新しいものを使用してください。2～3カ月以上保存したり、異物が混入した燃料を使用すると、故障の原因となります。

① 給油する前に燃料をよく混合してください。

② 燃料タンクの燃料キャップをゆっくりとはずし、燃料を給油してください。

③ 給油後は確実に燃料キャップを締め、燃料タンクから燃料漏れのないことを確認してください。

4－2　チェンオイルの注入

⚠ 注　意

- チェンオイルが無い状態でチェンソーを運転しないでください。ソーチェンとガイドバーが焼き付き、破損します。
- チェンオイルにチェンソー用チェンオイル以外は使用しないでください。故障の原因となります。

チェンオイルはソーチェンとガイドバーの摩擦を防ぎ、切断をスムーズにする大切な役目をします。燃料給油のときに専用チェンオイル、応急的にはSAE 10W－30相当オイルを補給してください。

〈注記〉
寒冷地ではオイルが固くなり補給できなくなることがあります。この場合、冬季用チェンオイルを使用するか、またはチェンオイル1に対して灯油を若干混ぜたものを使用してください。（ただし、チェンオイル1に対して灯油1以上の割合にはしないでください。火災などの原因となりたいへん危険です。）
またヤニの多い木を切断するときも同様に灯油を少量混ぜて使用するとヤニの付着が少なくなります。

4-3　エンジンの始動

Softスタートは軽く引けるスターターです。リコイルスターターを軽く引いてもスプリングの作用で、エンジンを簡単に始動することができます。

⚠ 危　険

- ■ エンジンを始動するとき、ソーチェンが地面や他の物体に接触していないことを確認してください。また、そばに他の人がいないことを確認してください。始動後すぐにソーチェンが回り危険です。
- ■ エンジンの落としがけは決して行わないでください。チェンソーのコントロールができず、大変危険です。

⚠ 注　意

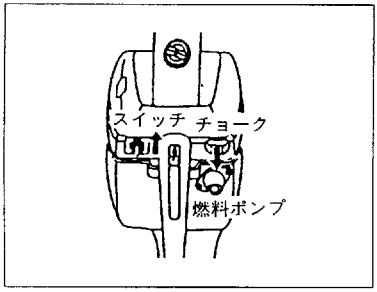
始動時にリコイルスターターのロープを最後まで引かないでください。ロープの寿命が短くなります。リコイルスターターを急に離さないでください。正しく巻き込まれないことがあります。

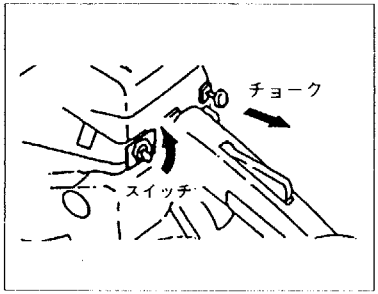
① スイッチを「ON」（上側）にする。
② チョークの下に付いている燃料ポンプ（透明半円形）を数回押し、ポンプ内に燃料が入りはじめ、泡が少なくなったらやめてください。
③ チョーク
　(a) エンジンが冷えているとき
　チョークをいっぱいに引いてください。このとき、始動ロック※１も自動的にかかります。

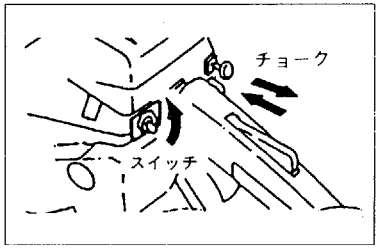
　※１始動ロック：スロットルを始動の位置にセットし、エンジンを始動しやすくします。

　(b) エンジンが暖まっているとき
　チョークをいっぱいに引き、ふたたびもとの位置に押し込んでください。この動作で始動ロックがかかります。

〈注記〉
チョークを引いて始動するときは、爆発音がしたら必ずチョークを押し込んでください。チョークを押し込まないと燃料の吸い込みすぎとなり、始動ができなくなります。

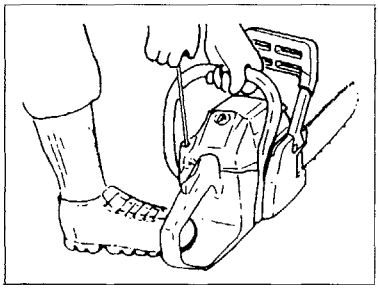






④ チェンソーを地面におき、右足でリヤハンドルをしっかりと固定します。作業者以外の人を作業場所から遠ざけてください。

⑤ 左手でフロントハンドルをつかみ、右手でリコイルスターターを引きます。



⑥ リコイルスターターを数回引き、爆発音がしたらチョークをもとの位置に押し込んでください。（エンジンが冷えているとき）

⑦ ふたたびリコイルスターターを引いてください。エンジンが始動したらスロットルレバーを少し引いて、始動ロックをはずしてエンジンをアイドリング状態にしてください。

⚠ 警　告

アイドリング時ソーチエンは回転しないように調節してあります。アイドリング時、ソーチエンが回転すると危険です。回転する場合はアイドリング調整をしてエンジン回転速度を下げて、ソーチエンが回転しないようにしてください。（8－2項参照）

⑧ アイドリング運転を2～3分間実施してください。

⑨ スロットルレバーを徐々に引いてエンジンの回転速度を上げてゆくと、自動的にソーチエンが回転し始めます。スロットルレバーをもどすと、ソーチエンの回転が停止し、エンジンはアイドリング状態になります。

4－4　始動困難なとき

エンジンが暖まっている状態で始動しないときは、燃料ポンプ（透明半円形）を泡が少なくなるまで数回押し、エンジンが冷えている場合と同じ方法で始動してみてください。それでも始動しない場合、またはエンジンが冷えた状態で始動しない場合は次の操作を行ってください。

⚠ 警　告

火気を近づけないでください。火災の原因となります。

① スイッチを「STOP」にしてください。

② クリーナカバーの上のノブをゆるめ、クリーナカバーを取りはずしてください。

③ スパークプラグを付属のプラグレンチではずし、スパークプラグの電極部が濡れているかどうか調べてください。

④ スパークプラグが濡れている場合はスパークプラグを乾燥させてください。スパークプラグを抜き取った状態でリコイルスターターを引き、数回空転させて燃料をシリンダ内から追い出してください。

⑤ スパークプラグを付属のプラグレンチで確実に取り付け、プラグキャップをつなぎクリーナカバーをもと通りに取り付けます。エンジンが暖まっている場合の方法で始動してください。

⑥ スパークプラグが濡れていない場合は燃料タンクから燃料が届いていないので、燃料フィルターやキャブレターを点検する必要があります。8－2および8－5項の点検をするか、またはお求めの販売店にお問い合わせください。

4－5　停止

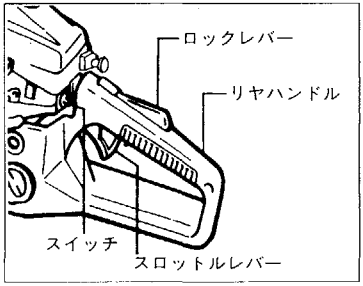
緊急時を除きエンジンを停止させるときは、スロットルレバーを戻し2～3分間アイドリング運転をしてからスイッチを「STOP」（下側）にしてください。

4－6　チェンオイル給油量調整

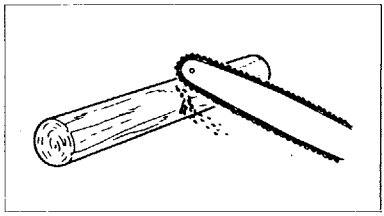
本機にはソーチェンを回転させると自動的にチェンオイルが給油される自動給油装置を装備しています。

① エンジンを始動し、ロックレバーを押さえ、スロットルレバーを徐々に引いてください。ソーチェンが回転します。

〈注記〉
ハンドル上部のロックレバーを押さえないとスロットルレバーは引けません。使用中スロットルレバーを離せばアイドリングに戻ります。

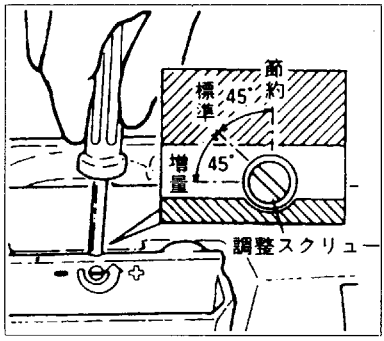


② ガイドバーを乾いた木や地面に向けてチェンソーを運転し、木や地面に付いたオイルの跡からチェンオイルが出ていることを確認してください。



③ 本体下部の調整スクリューにより給油量を調整できます。必要に応じて調整スクリューをマイナスドライバーで押しながら回し、給油量を調整してください。

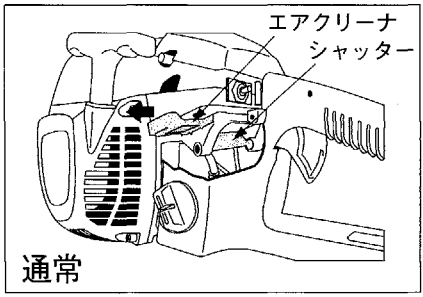
節約：小さい径の木を切断するときなど、オイルを節約したい場合にこの位置にセットしてください。
標準：出荷時はこの位置にセットしてあります。通常はこの位置で使用してください。
増量：ヤニの多い木や堅い木や大きい径の木を切断する場合に⊕側にセットしてください。

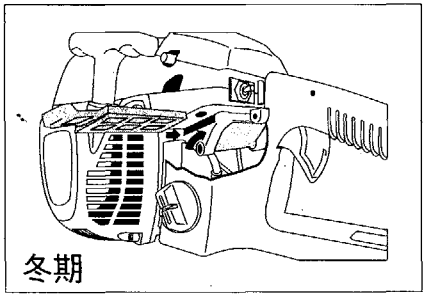


〈注記〉
- 調整スクリューはマイナスドライバーで回すとスムーズに回ります。調整スクリューを増量あるいは節約にセットして作業をしたときは、作業終了後、標準位置にもどしてください。
- 新しいソーチエン、または長期保管後のソーチエンは中速でなじみ運転し、チエンオイルがソーチエンやガイドバーに充分行きわたってから使用してください。

5．アイシング防止について

冬期の使用時にアイシング（キャブレタの凍結）が発生する場合は、下図のエアクリーナを取り外し、シャッターをドライバー等細い物で、リヤハンドル側に倒し、エアクリーナを元の位置に取り付け、シャッターを固定してください。





⚠ 注　意

冬期以外は、必ず元の位置に戻してください。そのまま使用していると焼付きやキャブレター不調の原因となります。

6．チェンブレーキについて

チェンブレーキは万一、キックバック（はね返り）が発生すると、左手がフロントガードに当たり、フロントガードが前に倒れると同時にチェンブレーキが作動してソーチェンの回転を止めます。

⚠ 注　意

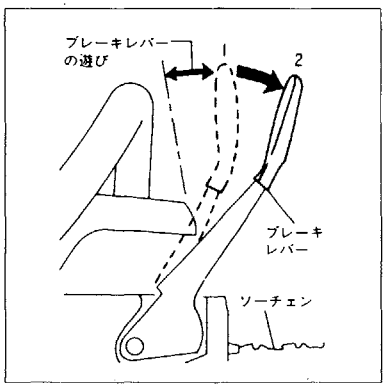
- チェンソーはフロントハンドルを持って持ち運んでください。（ブレーキレバーを持たないでください。）
- クラッチカバーの取り付け、取りはずしをするときは、ブレーキレバーを立てた（ブレーキ解除）状態で行ってください。
- チェンブレーキはキックバック（はね返り）による危害の可能性を少なくするものであり、チェンソーを不注意に使用した場合の防御にはなりません。

6－1　チェンブレーキの操作

⚠ 注　意

■ チェンブレーキが作動したら、すみやかにスロットルレバーをはなしてください。

■ チェンブレーキを作動させたままエンジンを始動させたり運転したりしないでください。



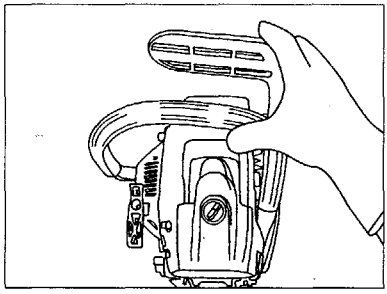
① チェンブレーキはブレーキレバーが立った位置１のとき、チェンブレーキは解除状態で、ソーチェンは駆動可能となります。

② ブレーキレバーが前方に傾いた位置２のとき、チェンブレーキが作動し、ソーチェンはロックされます。

③ ブレーキの作動を解除するときは、ブレーキレバーを手前いっぱいに引きもどしてください。

6－2　チェンブレーキの解除要領

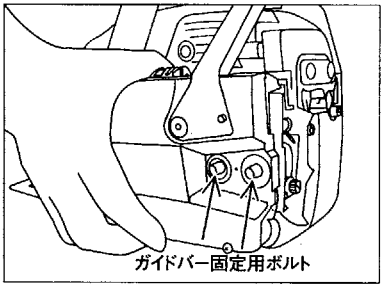
① 通常時は、右図のようにフロントガードの右側を持ってブレーキを解除してください。先端付近を持つと解除することができません。



② クラッチカバー単体でブレーキが作動状態になった場合は、クラッチカバーを本体のガイドバー固定用ボルトに差し込み、仮固定して解除してください。

⚠ 注　意

■ブレーキが作動状態のため、ガイドバー締め付けナットでの締め付けは行わないでください。
ブレーキバンドがクラッチドラムに押しつぶされ、変形することがあります。



6－3　チェンブレーキの手入れ

クラッチカバー内は、いつもきれいに保ち、切りくずなどは取り除いてください。ブレーキバンドが新品時の厚さの20%以上摩耗したら新品と交換してください。

7．切断作業

7－1　効率のよい使い方

⚠ 警　告

チェンソーを運転中は常に耳せん、保護めがね、保護帽を着用してください。

スロットルを全開にし、切断時のエンジン回転速度が8000～10000min^{-1}(rpm)の範囲になるように、ソーチェンを軽く木に押し当てて切断するのが最も効率のよい使い方です。ソーチェンを木に強く押し当てて、エンジン回転数を下げて使用するのは使用者の疲労を増し、切断力が著しく低下するだけでなく、反動があって危険です。

7－2　伐木

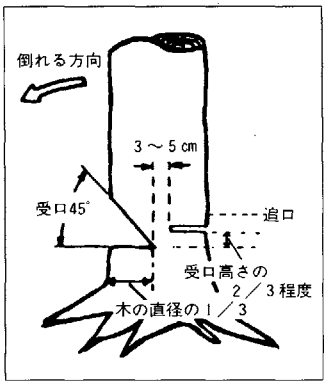
⚠ 警　告

- 伐倒する前に安全な退避場所を確保しておいてください。
- 他の人が避難したことを確認した後でなければ伐倒しないでください。
いつも同じ方向に倒れるものと考えては危険です。

⚠ 危　険

キックバックの発生を防止するため、ガイドバーの先端で切断しないようにしてください。

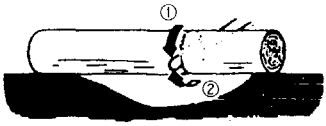
① 木の大きさ、形状、傾斜状態や風向きなどを考慮してから倒す方向を決めておいてください。
② 安全に作業ができるよう、周囲をきれいにしておいてください。
③ 受け口の切り込みの大きさは、木の種類と太さにより差がありますが、直径の1/3位まで切り込みます。
④ 追口の切り込み
受け口の下の面より受口高さの2/3程度高い所から水平に切り込みます。芯部の残りが3～5cm程度で受け口の方向に倒れます。
鋸断中にガイドバーが切目に挟まれたら、エンジンを停止し、切目にクサビを打ち込んではずしてください。
⑤ 木が倒れ始めたら、ただちに、エンジンを停止して周囲の人に合図をして、安全な場所に避難してください。



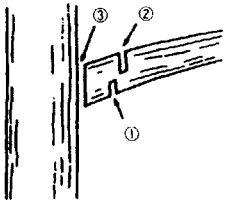
7－3　玉切りと枝払い

1．玉切り
① 図のようにささえがなく横たわっている木材を切断するときは、木材を安定させてください。上側から切断してください。
② 図のように両端で支えられているような木材を切断するときは、上側から1／3切ったあと、下側から切ってください。こうすれば、ガイドバーが挟まれることがありません。





2．立木の枝払い
右図の①のところを下側から1／3切ったあと、②のところを上側から切り落とします。最後に残った③の部分を根元から切り落とすと楽に切ることができます。



8．点検・整備

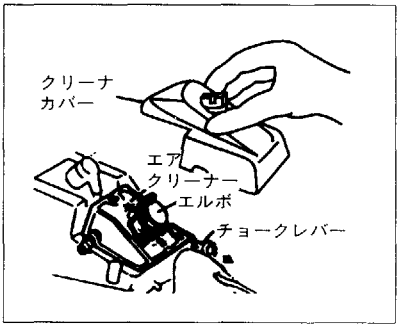
⚠警　告

ガソリンはたいへん引火しやすいので、点検・整備は風通しのよい火気のないところで行ってください。

点検・整備表

項目		始動前	毎週	毎月	必要な場合
エアクリーナー	掃　除	○			
キャブレター	調　整				○
スパークプラグ	点検、掃除			○	
シリンダーフィン	掃　除			○	
燃料フィルター	点　検			○	
スプロケット	点検、交換		○		
ソーチェン	点検、目立	○			
ガイドバー	点検、交換	○			
スクリュー、ナット	点検、増締	○			
燃料キャップ、燃料タンク	漏れ点検	○			
クラッチドラム	グリース補給			○	

8－1　エアクリーナーの掃除



1．エアクリーナー

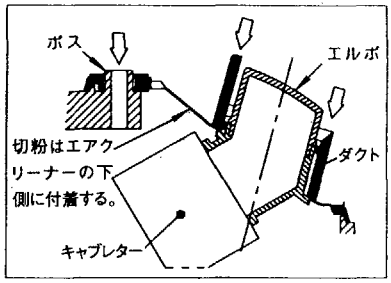
① キャブレター内にゴミが侵入しないよう、必ずチョークレバーを引いてください。

② クリーナーカバー上のノブをゆるめ、クリーナーカバーを取りはずし、エアクリーナーを点検します。切粉はエアクリーナーの下側（内側）に付着しますので確認してください。

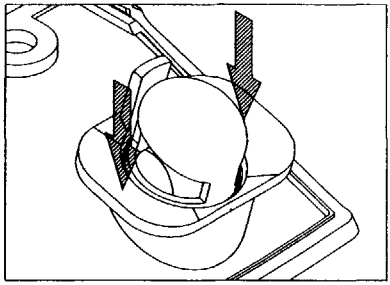
③ エアクリーナーのゴミの付着が多い場合にはエアクリーナーを取りはずし、ゴミを落としてから、中性洗剤で良く洗ってください。
エアでゴミを吹き飛ばす場合は、上（外側）から下（内側）に向けて行ってください。

＜エアクリーナの取り付け＞

エアクリーナをシリンダカバーの所定の位置にセットして下さい。エルボにエアクリーナのダクト部分を挿入し、シリンダカバーのねじボスにエアクリーナの穴を合わせはめ込んで下さい。



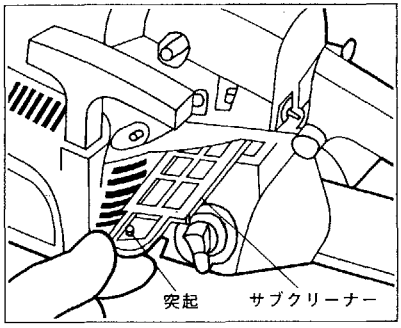
エアクリーナのつばの部分（矢印部分）を軽く押しリップ部分が確実にエルボの外周を取り囲むように取り付けて下さい。



2．サブクリーナー

① サブクリーナーを手前に引き抜いて点検してください。切粉はサブクリーナーの下側に付着しますので、確認してください。

② サブクリーナーのゴミの付着が多い場合には、ゴミを落としてから中性洗剤で良く洗ってください。



〈サブクリーナーの取り付け〉

サブクリーナーの突起が見えなくなるまで押し込んで下さい。

8－2　キャブレターの調整

キャブレターは工場出荷時に調整してありますが、気圧、気候、燃料の違い、10時間以上の使用（なじみ効果）による状態変化などにより、調整が必要になったときのみ行ってください。
調整が難しい場合にはお求めの販売店か弊社営業所にお問い合わせください。

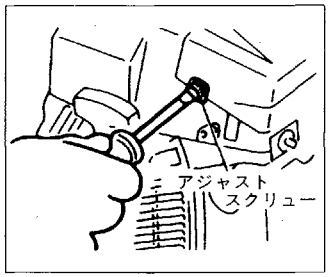
キャブレターを調整する場合は、エンジンを始動し、２～３分間の暖機運転の後、次の手順で調整してください。また、エアクリーナーが汚れている場合は掃除してから行ってください。

1．アイドリングの回転調整

⚠ 危　険

ソーチェンの周辺に人または干渉物がないことを確認して行ってください。
アジャストスクリューの調整時はソーチェンが回転します。

アイドリング時にはソーチェンが回転しないようにアジャストスクリューでエンジン回転速度を下げます。またエンジンが2800～3200min^{-1}{rpm}で安定して回転するようにアジャストスクリューを調整してください。時計方向に回すと回転速度が上がります。



2．低速（L）ニードルと高速（H）ニードルの調整範囲

⚠ 危　険

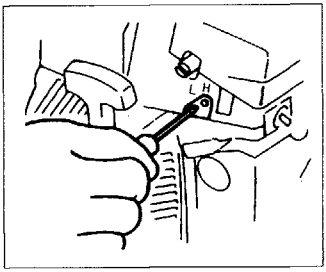
ソーチェンの周辺に人または干渉物がないことを確認して行ってください。低速と高速調整時はソーチェーンが回転します。

⚠ 注　意

- 無負荷全開運転するとエンジン回転速度が速くなりすぎ、焼き付くおそれがありますので、空吹かしはしないでください。
- Hニードルの戻し開度を1開度（全閉にしたところから1回転戻し）以下にすると燃料が薄くなり、焼き付く恐れがありますので、戻し開度は1以上にしてください。
- ニードル調整時、力いっぱいに時計方向に締め込まないでください。キャブレターボデーをいため、調整できなくなります。

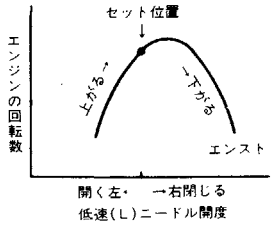
標準開度	EA300S	EA360S
Lニードル：	$1\frac{1}{4}\pm\frac{1}{4}$回転	$1\frac{1}{8}\pm\frac{1}{4}$回転
Hニードル：	$1\frac{1}{8}\pm\frac{1}{8}$回転	$1\frac{1}{8}\pm\frac{1}{8}$回転

標準開度はニードルを静かに、時計方向にいっぱいに回し、全閉したところからの戻し数値です。



3．低速(L)ニードルとアジャストスクリューによる調整

① アイドリングの回転速度調整をした後、低速(L)ニードルを反時計方向または時計方向にゆっくり回してみて、エンジンの回転速度が上がる方向に回していきます。更にそのまま回し続けるとエンジン回転速度が低下していきます。



② その低下する寸前のところから約1/4回転反時計方向にもどしてセットしてください。
この調整によりアイドリング回転速度は最初のセット時より回転速度がかなり変化しています。

③ 再度アジャストスクリューを調整して、エンジン回転速度を2800～3200min^{-1} {rpm} にセットしてください。

④ これを2～3回くり返すと、最適の低速エンジン回転速度に調整できます。

4．高速（H）ニードルの調整

⚠ 注　意

このエンジンは過回転防止機構付です。Hニードルの戻し開度を1開度（全閉にしたところから1回転戻し）以下にしても、エンジンの最高回転速度は変わりません。焼き付く恐れがありますので、戻し開度は1以上にして下さい。

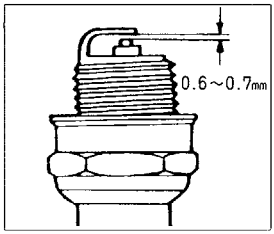
キャブレターの標準開度（$1\frac{1}{8}\pm\frac{1}{8}$）の範囲内で実際に木を切断してみて、もっとも力があり、よく切れるところにセットしてください。

8－3　スパークプラグの点検

エンジンの始動性が悪くなったり、アイドリングが不安定になった場合はまずスパークプラグを点検してください。

① スパークプラグをはずしてください。
4－4「始動困難なとき」の項を参照してください。

② ワイヤブラシで汚れを落としてください。必要なら電極間すきまを調整してください。正しいすきまは0.6～0.7mmです。



〈注記〉

約100時間運転後、または電極の腐食がひどい場合はスパークプラグを交換してください。

スパークプラグは純正品（CJ6Y)をご使用ください。

8－4　シリンダーフィンの掃除

・シリンダーフィンの間を掃除してください。シリンダーフィンの間にゴミがつまっていると、オーバーヒートや火災の原因となります。

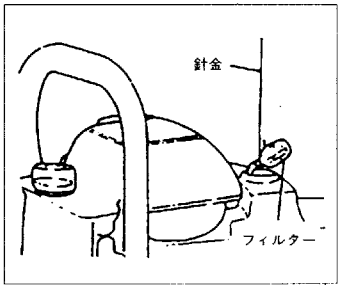
・つまりが多いときはお求めの販売店に依頼してください。

8－5　燃料フィルターの点検

① 燃料注入口から針金などでフィルターを引き出してください。

② 先端のフィルターにごみがたまっていたら交換してください。

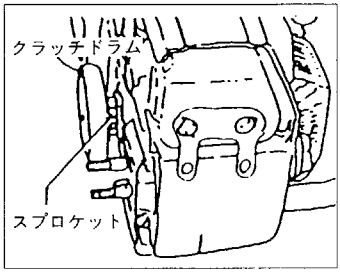
③ 交換後、ゴムパイプが折れないようにして、燃料フィルターを燃料注入口から、燃料タンク内に戻してください。このとき、燃料フィルターが燃料タンクの底に着いていることを確認してください。



8－6　スプロケットの点検

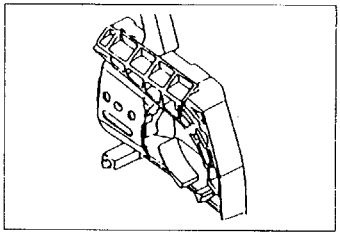
① クラッチカバーをはずしてください。

② クラッチドラム裏側のスプロケットを調べ、摩耗していたらお求めの販売店か弊社営業所にお問い合わせください。交換の目安は段差が約0.3mmです。



8－7　クラッチカバーの掃除

内側にたまった切りくずなどは取り除いてください。

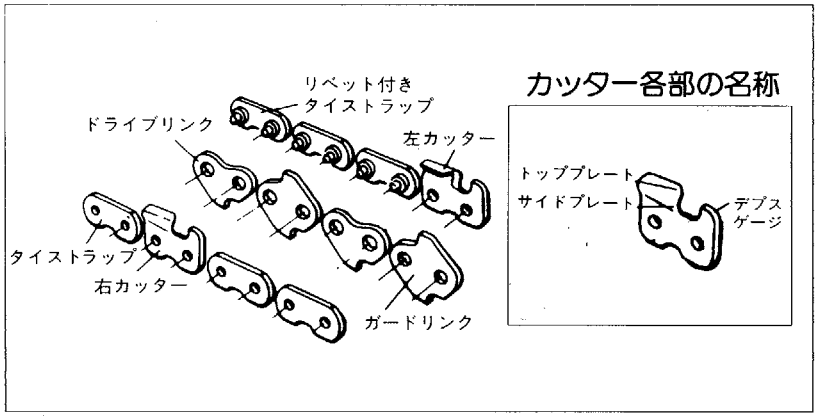


8－8　ソーチェンの点検と目立て

1．ソーチェン各部の名称

・ドライブリンクはガイドバーの溝にたまった切りくずを排出する働きがあります。

・デプスゲージは切断のとき、木材に対するくい込み量を制限する働きがあります。



2．点検

カッターが摩耗していたら目立てをしてください。ソーチェンがヤニなどで汚れていたらガソリンで洗い、オイルに浸して、錆の発生を防止してください。ソーチェンの各部品に破損があった場合は、お求めの販売店か弊社営業所で修理してください。

3．目立てのしかた

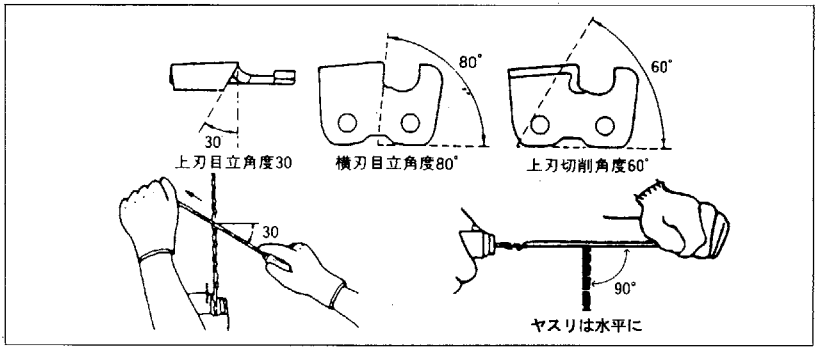
⚠警　告

ソーチェンを取り扱うときは、必ず手袋をしてください。

●目立てのポイント

すべてのカッターを鋭利にし、左右のカッターの角度とデプスゲージをそろえます。

●目立て角度



●目立ての手順

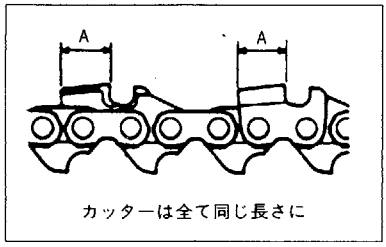
上図の目立て角度になるように次の手順で目立てを実施してください。

① 必ず、カッターの内側から外側に向かって、付属の丸ヤスリ(φ4㎜（5／32インチ)) でヤスリがけしてください。

② カッターは、必ず自分から見て反対側のカッターを全部とぎ、次にチエンソーの向きを変え、反対側のカッターをといでください。

③ カッターは、Aの寸法をすべて同じ長さにそろえてください。

④ トッププレート、及びサイドプレートに傷がある場合は傷がなくなるまで目立てを行ってください。

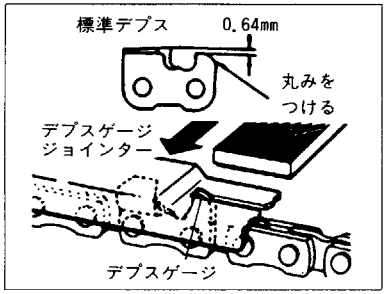


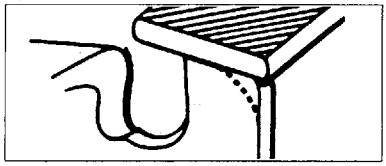
●デプスゲージの調整

目立てが完了したらデプスゲージの調整を行ってください。

① ゲージ(EA300Sは別売)をカッターの上に置き、デプスゲージが出ているときは平ヤスリでゲージと平になるまでとぎます。

② とぎ終わったら、前方の角を丸くし、もとのデプスゲージの形にします。





ソーチェン目立ての良い例



ソーチェン目立ての悪い例

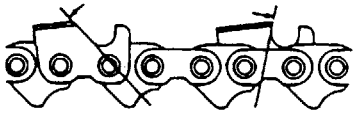
(イ)すべての刃の角度がそろっていない



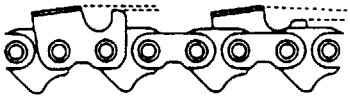
(ロ)すべての刃の長さがそろっていない



(ハ)すべての横刃がそろってない



(ニ)すべてのデプスケージがそろっていない



8－9　ガイドバーの手入れ

●ガイドバー溝、オイル穴部はいつもきれいにしておいてください。切りくずがつまっているときはゲージ（バークリーナー）の先で取り除いてください。

●ソーチェンの目立てや交換をするときは、ガイドバーの上下を裏返してください。ガイドバーの片側のみが摩耗するのを防ぎ、寿命がのびます。

●ガイドバーの溝が浅くなり、ドライブリンクの足がガイドバー溝の底に接触する前にガイドバーを交換してください。

●ガイドバーの全体に曲がり、割れ、欠けのないことを確認してください。

●点検の結果、修理や部品交換が必要な場合は、お求めの販売店にご相談ください。独自の修理は故障や重大な事故の原因となります。

●交換する部品は新ダイワ純正部品を使用してください。

●定期的にお求めの販売店で点検を受けてください。

9．長期保管

次の手順に従って保管してください。

① 各部を十分に掃除してください。

② 点検・整備の項を参考にして点検・整備を行ってください。

③ 燃料タンクの燃料を排出してください。

④ エンジンを始動し、キャブレター内に残った燃料を使い切ってエンジンが停止するまで低速で運転してください。

⑤ エンジン停止後、必ずスイッチを「STOP」の位置にしてください。

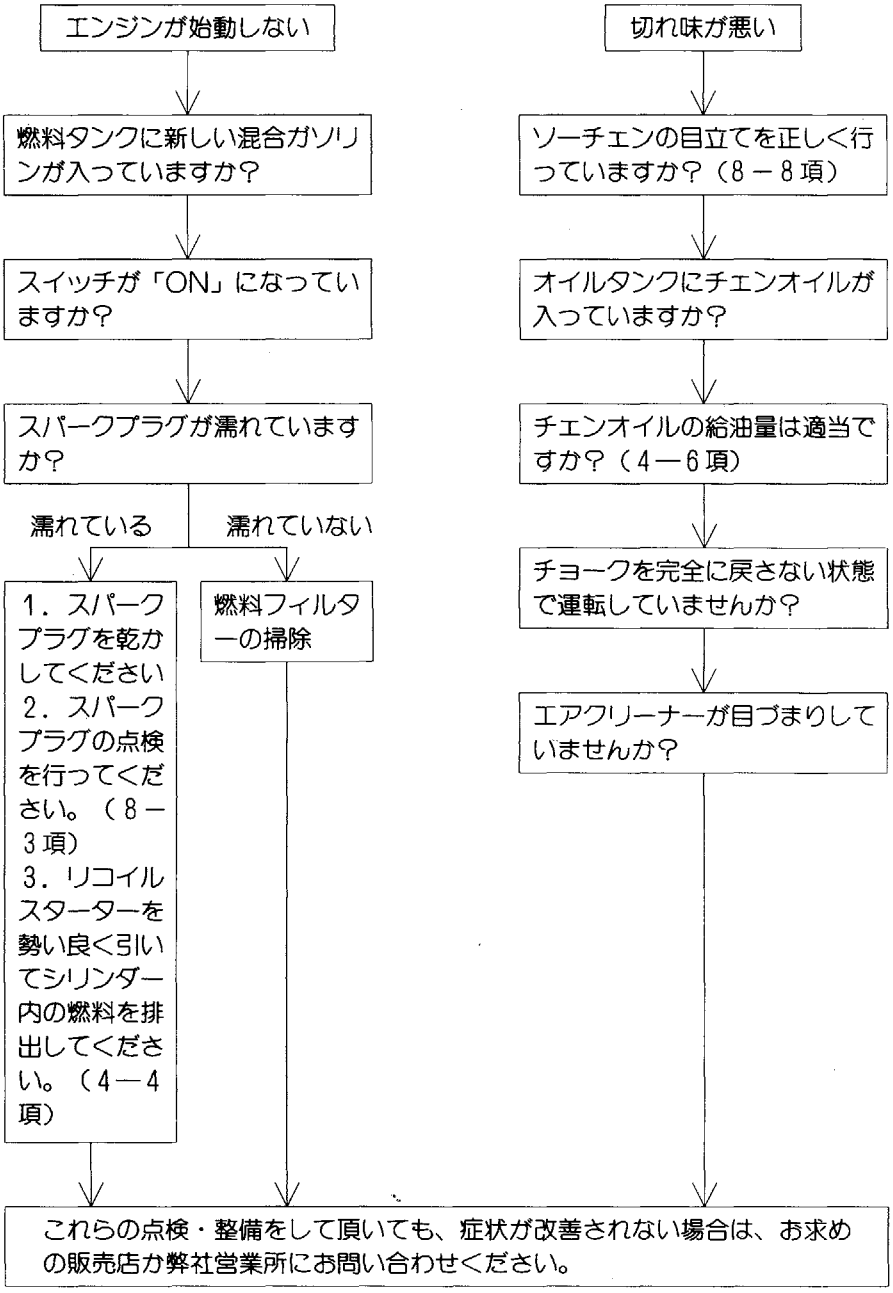
⑥ クリーナーカバー、プラグキャップ、スパークプラグをはずし、スパークプラグ穴から少量のオイルをシリンダ内に流し込み、オイルが行きわたるように2～3回リコイルスターターを引いてください。

⑦ クリーナーカバー、プラグキャップ、スパークプラグをもと通りに取り付けてください。

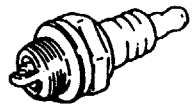
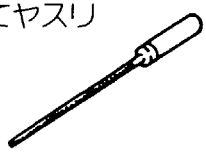
⑧ チェンカバーを取り付けてください。

⑨ 乾燥した火気のない冷暗所に保管してください。

10. 修理を依頼する前に



11. 主な消耗品（お求めの販売店にご用命ください。）

品　　名	規　　格
ガイドバー 	350mm（14インチ） 400mm（16インチ）
ソーチエン 	91VS−53E（350mm用） （VX） 91VS−58E（400mm用） （VX）
スパークプラグ 	チャンピオン CJ6Y
ソーチエンオイル  4L	ソーチエンオイル （または、 SAE10W-30相当品）
目立てヤスリ 丸ヤスリ  平ヤスリ 	φ4mm（5/32インチ） 幅9mm

12. 仕様

モデル		EA300S	EA360S	
エンジン形式		空冷2サイクルガソリンエンジン		
排気量 ml {cc}		28.5	35.2	
内径×行程 mm		36×28	40×28	
アイドリング回転度 min^{-1} {rpm}		3000		
点火方式		CDI		
スパークプラグ		チャンピオン CJ6Y		
キャブレター		ダイヤフラム式		
燃料タンク容量 L		0.34	0.4	
燃料		混合ガソリン（無鉛ガソリン：新ダイワ純正2サイクルエンジンオイル=50：1又は、無鉛ガソリン：2サイクル専用オイル=25：1）		
始動方式		リコイルスターター プライマーポンプ装置（手動燃料ポンプ）＊1 チョーク連動スロットル方式 ＊2		
停止方式		アース式（トグルスイッチ）		
動力伝達方式		自動遠心クラッチ		
防振構造		ハンドル一体防振（5点支持）		
消音装置		大型吸収形マフラー		
安全装置		フロントガード、リヤガード、チェンキャッチャ、ロックレバー		
ガイドバー長さ mm		350	350	400
ソーチェン	型式	91VS-53E (VX)	91VS-53E (VX)	91VS-58E (VX)
	ピッチ	3/8″		
	ゲージ	0.050″		
スプロケット歯数		6		
チェン給油方式		油量調整式自動給油		
チェンオイル		新ダイワ純正チェンオイルまたはSAE 10W-30相当オイル		
オイルタンク容量 L		0.25		
本体寸法（長さ×幅×高さ）mm		350×240×260		
本体乾燥質量 kg		4.0	4.1	

＊1 プライマーポンプ：燃料をキャブレターまで吸い上げ、始動を容易にします。

＊2 チョーク連動スロットル方式：始動時のハーフスロットル状態が、チョークレバーを引くだけでセットできます。スロットルレバーを引くとチョークおよびハーフスロットルは解除されます。

＊仕様は予告なく変更することがあります。

【メ　モ】

【メ　モ】

【メ　モ】

shindaiwa

保証書

(Type-A)

このたびは新ダイワ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。お買い上げいただいた製品につきましては、つぎの通り保証いたします。

1．保証期間

無償保証修理を受けられる期間はお買い上げ日から１年間といたします。但し、専門業者またはレンタル業など業としてご使用の方はお買い上げの日から６カ月といたします。

2．保証内容

保証期間に通常の使用状態で本機を構成する部品に材料または製造上の不具合が発生し、弊社がこの欠陥を認めた場合にかぎり、修理を無償でいたします。

3．保証の適用除外

つぎに示すような場合は保証期間中であっても有償修理となります。

（1）取扱説明書に示す正しい取扱い操作や日常・定期点検、保管方法を行なわなかったために生じた故障
（2）弊社が示す仕様の限度をこえて使用したために生じた故障
（3）弊社が認めていない改造・変更が原因となって生じた故障
（4）弊社のサービス指定工場および弊社が認めたところ以外で修理し、それが原因で生じた故障
（5）弊社の純正部品以外の部品を使用したために生じた故障
（6）時の経過による変化（塗装面・メッキ面の自然退色、発錆など）
（7）一般的に品質、機能および安全上に全く影響がないと認められる音、振動、オイルのにじみ、外観上の軽微なキズなど
（8）自然災害または事故、過失、不注意による本機の損傷
（9）一般消耗品等で使用上における自然摩耗と認められるもの
（10）製品が日本国外で使用された場合

4．注意事項

（1）本保証書の提示なき場合または記載内容の不備あるいは改訂のある場合は保証しかねる場合があります。
（2）本機の故障に起因するまたは関連するあらゆる損失および費用は保証の範囲から除外させていただきます。
（3）保証書の再発行はいたしませんので、大切に保管してください。

機種(型式名)：		製造番号：
お買い上げ日：	年　月　日	
お客様	お名前：　印	
	おところ：〒	
	TEL：	ご職業：
販売店	住所：	
	店名： TEL：　印	

新ダイワ工業株式会社
広島市安佐南区大塚西６丁目２－11

保証書番号　19701-02004

新ダイワ工業株式会社

本社	〒731-3167	広島市安佐南区大塚西6丁目2-11	☎ 082-849-2001
札幌営業所	〒065-0033	札幌市東区北三十三条東17丁目4-17	☎ 011-783-7551
仙台営業所	〒984-0042	宮城県仙台市若林区大和町1丁目22-45	☎ 022-239-1688
郡山営業所	〒963-0107	福島県郡山市安積4丁目48-1	☎ 024-945-8678
盛岡営業所	〒020-0122	岩手県盛岡市みたけ4丁目3-5	☎ 019-641-3416
東京営業所	〒134-0083	東京都江戸川区中葛西6丁目17-8	☎ 03-3687-5771
千葉営業所	〒264-0025	千葉市若葉区都賀3丁目19-1	☎ 043-214-0260
多摩営業所	〒192-0043	東京都八王子市暁町2丁目6-3	☎ 0426-20-5590
横浜営業所	〒222-0025	神奈川県横浜市港北区篠原西町34-33	☎ 045-431-7786
静岡営業所	〒422-8046	静岡市駿河区中島2834-1	☎ 054-282-7012
さいたま営業所	〒331-0811	埼玉県さいたま市北区吉野町1丁目19-4	☎ 048-666-2521
宇都宮営業所	〒321-0912	栃木県宇都宮市石井町3149-28	☎ 028-656-8737
土浦営業所	〒315-0052	茨城県かすみがうら市下稲吉1628-4	☎ 0299-59-1005
前橋営業所	〒371-0037	群馬県前橋市上小出町2丁目46-3	☎ 027-234-5956
長野営業所	〒381-0043	長野市吉田5丁目24-16	☎ 026-244-3970
新潟営業所	〒950-0892	新潟市東区寺山3丁目32-12	☎ 025-275-5616
名古屋営業所	〒454-0826	愛知県名古屋市中川区小本本町1-75	☎ 052-362-2281
浜松営業所	〒430-0852	静岡県浜松市中区領家3丁目11-1	☎ 053-465-1140
津営業所	〒514-0823	三重県津市大字半田池町590-5	☎ 059-227-2716
岐阜営業所	〒500-8367	岐阜市宇佐南4丁目2-4	☎ 058-271-4015
金沢営業所	〒920-0016	石川県金沢市諸江町中丁344	☎ 076-237-1230
大阪営業所	〒556-0022	大阪市浪速区桜川4丁目11-20	☎ 06-6561-8484
和歌山営業所	〒640-8482	和歌山市六十谷226-6 黒田コーポ	☎ 073-462-7277
京都営業所	〒601-8304	京都市南区吉祥院前河原町1	☎ 075-321-0141
姫路営業所	〒670-0974	兵庫県姫路市飯田2-88	☎ 0792-33-6838
広島営業所	〒731-3167	広島市安佐南区大塚西6丁目2-11	☎ 082-849-2400
防府営業所	〒747-0031	山口県防府市迫戸町5丁目25	☎ 0835-27-0575
岡山営業所	〒700-0965	岡山市西長瀬261-104	☎ 086-241-3013
高松営業所	〒761-0101	香川県高松市春日町片田1638-7	☎ 087-843-1201
松山営業所	〒790-0064	愛媛県松山市愛光町9-14	☎ 089-922-8886
福岡営業所	〒812-0006	福岡市博多区上牟田3丁目5-22	☎ 092-411-9801
小倉営業所	〒803-0826	福岡県北九州市小倉北区高峰町10-8	☎ 093-561-3422
諫早営業所	〒854-0066	長崎県諫早市久山町1785-5	☎ 0957-49-8857
大分営業所	〒870-0155	大分市高城南町7-13	☎ 097-552-1745
熊本営業所	〒861-8045	熊本市小山3丁目7-26	☎ 096-388-0096
鹿児島営業所	〒890-0073	鹿児島市宇宿2丁目23-18	☎ 099-257-6801
宮崎営業所	〒880-2112	宮崎市小松2399-6	☎ 0985-62-3612

080416